

1. 銅の国際市況と需給動向 (2005年9月)

金属資源開発調査企画グループ

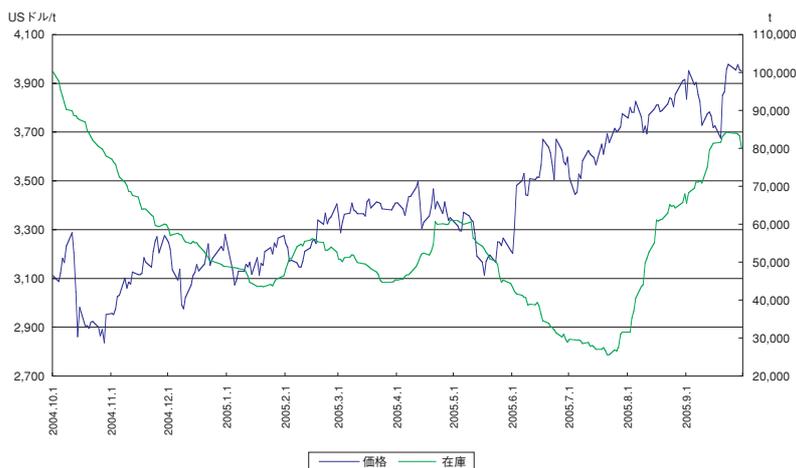
1. 銅の国際価格は、原油相場高と鉱山スト、低水準の在庫量などから引き続き高水準で推移し、9月23日には3,978ドル/tと史上最高値を記録している。
2. 1～7月の鉱山生産は前年同期比3.4%増。地金生産は4.8%増。一方、消費量は米国、日本等の先進国が低調で2.9%減。その結果、1～7月の需給バランスは、前年の784千tを大きく下回る235千tの供給不足。
3. 銅市況は3か月先物価格で記録を更新し続ける等、投機資金流入による価格上昇が継続。最近ではこの高価格がもう暫く継続するとの見方が強まっている。

1. 国際価格

銅の国際価格は、8月初に史上初となる3,800ドル/t台を記録した後も、原油相場高と鉱山スト、低水準の在庫量などから、引き続き乱高下を伴いながら最終的には上昇基調が継続し、9月23日には3,978ドル/tと史上最高値を記録している。

9月の銅の国際価格は上昇基調が衰えず4か月連続で上昇した。8月初に史上初となる3,800ドル/t台を記録した後も、アサルコの長期ストや原油相場高に係る投機買いなどの影響で、LME在庫が増加したものの強含みで推移し、26日には3,854ドル/tと高値を更新した。9月に入っても、ハリケーン「カトリーナ」によるドル安懸念から2日には3,952ドル/tと最高値を更

新したのち、第3週にかけて4,000ドル台を目前に在庫増等を材料として一時3,700ドル台まで下落、19日には一旦3,675ドル/tまで下落した後、石油価格の急騰に伴い再度上昇し23日には3,978ドル/tと最高値を更新し、9月末まで3,900ドル台で推移し9月30日は3,949ドル/tで終了した。9月の平均価格は前月比1.6%増の3,857.84ドル/tとなった(図1-1)。



銅	2004年			2005年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (t)	77,925	59,775	48,875	46,350	52,650	45,275	61,000	44,325	28,875	31,525	67,950	79,950
平均価格(現物) (USドル/t)	3,012	3,123	3,145	3,170	3,254	3,380	3,394	3,249	3,524	3,614	3,798	3,858

図1-1 銅価格と銅在庫量の推移

出典：国際銅研究会資料

2. 需給

- ① 1～7月の鉱山生産は前年同期比3.4%増の8,411.2千t。7月の鉱山の設備稼働率は84.5%と下落傾向。
- ② 1～7月の地金生産は前年同期比4.8%増の9,419.7千t。うち、一次製錬は5.4%増で、二次製錬は1.3%の増。稼働率は79.5%とさらに下落。
- ③ 国別の1～7月の需要は、最大消費国中国が前年同月比8.8%増。一方、米国、日本が10%以上の減となり、世界計では2.9%減の6,842.6千t。
- ④ その結果、1～7月の需給バランスは235千tの供給不足(季節調整後は60千tの供給不足)。一方、LME在庫量は回復してきており、8月16日には60千tを超え、9月22日には84.3千tまで回復した。(9月30日現在約83千t)。

〈供給〉

2005年1～7月の鉱山生産は前年同期比3.4%増の8,411.2千tであった。月別の鉱山生産を見ると、120万tのレベルを挟んで増減を繰り返しており、2005年4月1,197.9千t、5月1,262.9千t、6月1,191.2千tで、7月は1,204.8千tとなっている。鉱山の設備稼働率は、2004年後半の90%超から2005年に入り80%後半に下落、その後も下落傾向で7月は84.5%であった。2005年1～7月の国別生産量は、最大生産国チリが前年同期比3.2%減、3位ペルーが3.3%減となる一方、2位米国が7.6%増、4位豪州が11.2%増、5位インドネシアがGrasberg鉱山の事故からの回復により39.1%増と大幅に増加した。

2005年1～7月の地金生産は前年同期比4.8%増の9,419.7千tであった。月別の地金生産は2005年4月以降増減を繰り返しており、4月1,331.4千t、5月1,376.3千t、6月1,356.2千tで、7月は1,376.8千tとなっている。精錬所稼働率は、2004年12月以降伸び悩み80～81%で低迷していたが、7月は79.5%とさらに下落している。2005年1～7月の国別生産量は、最大生産国のチリ(EW生産を含む、以下同様)が0.4%増、2位中国が21.8%増と大幅増、5位ロシア6.5%増となる一方、3位日本0.9%減、4位米国2.2%減、6位ドイツ1.6%減となったが、全体では増加した。

〈需要〉

国別の2005年1～7月の消費量は、最大消費国中国が前年同期比15.1%増となる一方、その他主要国では2位米国8.6%減、3位日本6.9%減、4位ドイツ5.2%減、5位韓国10.3%減となり、世界計では1.2%減の9,655.2千tであった。世界の消費を月別に見ると、2005年4～6月は増加傾向で、6月は1,426.4千tと今年最大の消費量となったが、7月は1,391.7千tと減少した。注目の中国の消費動向も同様に、2005年4～6月は増加傾向で、6月は341.6千tと今年最大となったものの、7月は299.0千tと減少している。

〈需給バランス〉

2005年1～7月は235千tの供給不足(季節調整後は60千tの供給不足)であった。2005年1月以降供給不足が継続しており、4月30千t、5月41千t、6月70千t、7月15千tの供給不足であった。季節調整後の需給バランスでも、2005年4月に12千tの供給超過となった後、5月6千t、6月27千t、7月45千tの供給不足となった(表1-1)。

表1-1 銅の需給状況

単位:千t

銅	2004年													1~7月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計	
鉱山生産量	1,078	1,044	1,175	1,180	1,208	1,213	1,234	1,246	1,228	1,293	1,283	1,351	14,533	8,132
地金生産量	1,275	1,222	1,320	1,280	1,274	1,284	1,332	1,340	1,343	1,355	1,362	1,382	15,769	8,987
一次地金生産量	1,117	1,065	1,130	1,109	1,109	1,121	1,155	1,191	1,185	1,190	1,201	1,229	13,802	7,806
二次地金生産量	158	157	190	171	165	163	177	149	158	165	161	153	1,967	1,181
消費量	1,365	1,360	1,544	1,424	1,355	1,397	1,325	1,285	1,410	1,344	1,434	1,286	16,529	9,770
需給バランス	-90	-138	-224	-144	-81	-113	7	55	-67	11	-72	96	-760	-784

銅	2005年									対前年同期比 (%)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1~7月計		
鉱山生産量	1,208	1,090	1,256	1,198	1,263	1,191	1,205	8,411	3.4	
地金生産量	1,368	1,240	1,372	1,331	1,376	1,356	1,377	9,420	4.8	
一次地金生産量	1,200	1,090	1,206	1,165	1,193	1,170	1,200	8,224	5.4	
二次地金生産量	169	150	165	166	184	186	176	1,196	1.3	
消費量	1,408	1,252	1,399	1,361	1,417	1,426	1,392	9,655	-1.2	
需給バランス	-39	-12	-27	-30	-41	-70	-15	-235	-	

出典：国際銅研究会資料

〈在庫〉

LME在庫量は、7月末の30千t台回復から急速に上昇傾向に推移し、8月16日には60千tを超えた。回復要因はロッテルダム（オランダ）倉庫で、前月比16.5千tの増。その後も緩やか

に上昇し続け、9月22日には84.3千tまで回復した。回復要因は釜山、Gwangyang（韓）倉庫で、前月比19.4千tの増。9月末の在庫量は79.95千t（表1-2）。

表1-2 LME 国別銅在庫量の推移

単位:千t

国名	2004年			2005年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ベルギー	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
フランス	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
ドイツ	0.000	0.000	0.000	0.000	2.225	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	2.500
イタリア	0.050	0.000	0.000	2.250	4.000	5.425	3.550	0.650	0.200	0.025	2.000	1.475
韓国	7.875	2.975	1.500	1.100	1.100	1.275	1.075	0.100	1.350	0.650	6.400	25.775
マレーシア	1.200	1.200	1.125	1.125	1.025	0.325	0.000	0.000	0.000	0.500	0.200	0.300
オランダ	0.000	1.850	1.275	2.100	6.000	3.950	20.100	10.275	3.300	5.675	22.200	18.450
シンガポール	23.675	15.050	9.275	3.825	3.025	0.575	0.000	0.000	0.000	0.300	4.050	8.025
スペイン	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.550	4.175	5.075	1.600	2.475	4.850	4.975
スウェーデン	0.050	0.350	0.650	1.050	1.225	1.225	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
アラブ	1.600	0.800	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
イギリス	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.450	0.000	0.000	0.000	3.700	16.375	8.425
米国	43.425	37.500	35.000	34.850	33.900	31.500	32.100	28.225	22.425	18.200	11.875	10.025
合計	77.925	59.775	48.875	46.350	52.550	45.275	61.000	44.325	28.875	31.525	67.950	79.950

出典：国際銅研究会資料

〈今後の見通し〉

年度当初の大方の予想では、2005年後半には需給緩和することが予想されていたが、LME価格が史上最高値を更新し、供給面での障害要因が依然として衰えず、投機筋による旺盛な買いで、3か月先物相場も3,900ドル/t台に突入した状況で、今後の需給予測を大幅に上方修正する動きが相次いでいる。

バークレイズキャピタルは、銅価は低水準の

在庫と投機筋の利食い売りの影響で、当面不安定推移すると予想。

ブルームズベリー・ミネラルズ・エコノミクスは、2005年の需給バランスを10千t以下の供給過剰と予測し、在庫増加を理由に2006年半ばにかけて3,250～3,750ドル/t圏で推移し、その後2007年半ばにかけて2,750～3,250ドル/t圏を不安定推移すると予測。

2. 鉛の国際市況と需給動向（2005年9月）

金属資源開発調査企画グループ

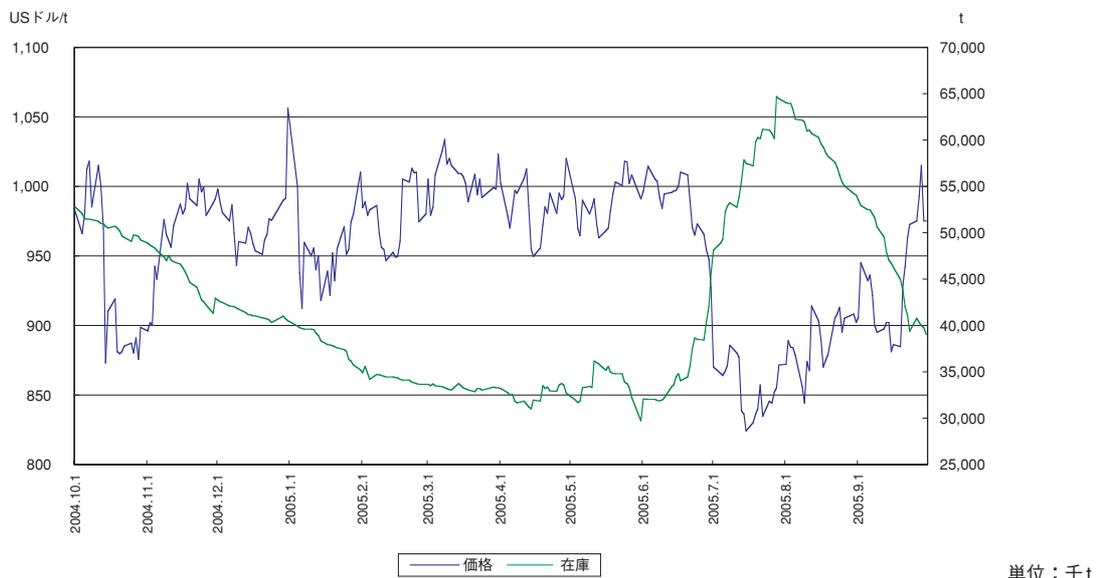
- 鉛の国際価格は、8月から9月にかけて堅調で推移し、長期化するカナダ・トレイル製錬所のストなどの影響で、28日には1,015ドル/tと3か月ぶりの1,000ドル台入りを果たし、2005年当初の水準に戻した。
- 2005年1～7月の鉱石生産は、前年同期比3.1%増。地金生産は、中国・英国で伸びが著しく、同8.9%増となった。消費も中国で21.3%増と著しく伸び、世界全体で前年同期比5.5%増となった。
- 2005年1～7月の世界の鉛需給バランスは、89千tの供給不足となっており、供給不足が解消する方向に向かっている。

1. 国際価格

鉛の国際価格は、8月から9月にかけて堅調で推移し、長期化するカナダ・トレイル製錬所のストなどの影響で、28日には1,015ドル/tと3か月ぶりの1,000ドル台入りを果たし、2005年当初の水準に戻した。

鉛の国際価格は、8月から9月にかけて堅調で推移した。需給は緩和の示徴を見せているものの、7月から継続しているカナダ・トレイル製錬所のスト、メタル相場全般に対する投機資金の流入が影響して、8月は800ドル台後半から900ドル台へ回復した。9月に入っても長期

化するストを要因に小幅な動きで推移していたが、後半は原油価格の高騰に伴う、メタル相場の全面高に引きずられるかたちで、28日には1,015ドル/tと3か月ぶりの1,000ドル台入りを果たし、2005年当初の水準に戻した。9月30日には975ドル/tで終了した（図2-1）。



鉛	2004年			2005年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (t)	49,200	42,900	40,475	35,200	33,625	33,275	32,700	29,700	45,600	64,425	54,050	39,000
平均価格 (USドル/t)	933	968	975	953	978	1,006	986	988	986	854	887	933

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

図2-1 鉛価格と鉛在庫量の推移

2. 需給 (2005年1～7月)

- ① 鉱石生産は、前年同期比3.1%増。地金生産も同8.9%の増加。地金生産は、中国、英国の伸びが大きい。消費は前年同期比5.5%増。中国で21.3%増の顕著な伸びを記録し、世界第1位に躍進。米国も5.2%増と好調。
- ② 2005年1～7月の世界の需給バランスは、89千tの供給不足となっており、供給不足が解消する方向に向かっている。
- ③ LME鉛在庫量は、8月・9月と2か月連続して減少し、39千tとなった。

2005年1～7月の世界の鉛鉱石生産は1,833千tであり、前年同期比3.1%増となった。主要生産国では2位豪州は1.2%増の401千tとなったが、中国以下の生産量は軒並み微減に転じた。

2005年1～7月の世界の鉛地金生産は4,264千tであり、前年同期比8.9%増となった。最大生産国の中国で22.7%増の1,241千tと顕著な伸び。4位英国も24.7%増の180千tとなった。日本は5位で3.7%増の169千tであった。

2005年1～7月の鉛消費量は4,382千tであり、前年同期比5.5%増となった。中国は21.3%増の956千tとなり世界第1位を維持。

米国でも5.2%増の921千tと消費が好調であった。3位ドイツは3.0%減の226千t、4位韓国も1.6%減の213千tであった。

2005年1～7月の世界の鉛需給バランスは、米国備蓄放出分も考慮すると89千tの供給不足となっているが、前年同期は206千tの供給不足であったことと比べると、不足量はかなり減少し、供給不足が解消する方向に向かっている。

LME鉛在庫量は、2005年7月末の2,964千tから、8月・9月と2か月連続して減少し、9月末の在庫量は39千tとなった(表2-1、2-2)。

表2-1 鉛の需給状況

単位:千t

鉛	2004年													年計	1～7月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
鉱山生産量	233	238	246	265	266	261	269	256	253.7	276.6	258.4	248.3	3,071	1,778	
地金生産量	545	524	571	580	578	572	545	544	586.1	605.2	598.3	587.4	6,836	3,915	
米国備蓄放出	1.8	5.3	7.8	4.5	6.9	2.4	5.7	3.0	7.3	4.1	4.3	3.1	56.2	34	
消費量	607	585	616	579	574	590	604	562	605.3	602.4	605.1	597.2	7,127	4,155	
需給バランス	-60.2	-55.7	-37.2	5.5	10.9	-15.6	-53.3	-15.0	-11.9	6.9	-2.5	-6.7	-234.8	-205.6	

鉛	2005年								前年 同期比 (%)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1～7月計	
鉱山生産量	246.1	238.5	264.0	268.2	261.9	278.1	276.2	1,833.0	3.1
地金生産量	594.8	578.9	604.7	620.6	623.6	624.4	616.8	4,263.8	8.9
米国備蓄放出	2.5	2.6	14.4	6.1	0.3	2.3	0.3	28.5	-17.2
消費量	602.6	604.3	631.5	647.2	630.4	616.1	649.6	4,381.7	5.5
需給バランス	-5.3	-22.8	-12.4	-20.5	-6.5	10.6	-32.5	-89.4	-

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

表2-2 LME 国別鉛在庫量の推移

単位:千t

国名	2004年			2005年							
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
シンガポール	24.1	23.0	22.3	19.9	18.1	19.4	21.9	20.2	29.2	38.2	31.3
米国	12.3	8.3	7.1	4.9	4.0	2.5	1.2	1.1	8.1	18.5	15.1
イタリア	9.8	9.8	9.5	9.5	10.7	10.7	8.9	7.7	7.4	7.0	6.9
オランダ	2.7	1.8	1.6	0.9	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5
その他	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3
合計	49.2	42.9	40.5	35.2	33.5	33.2	32.6	29.6	45.3	64.4	54.1

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

〈今後の需給見通し〉

国際鉛亜鉛研究会は、西側世界の鉛地金需給は2005年7.9万tの生産不足、2006年5.1万tの生産不足との予測を発表し、2004年並みの大幅

な供給不足との予測からほぼバランスするとの修正がなされた。また、2006年末までに、米国国家備蓄の鉛地金は、全て売却される見込み。

3. 亜鉛の国際市況と需給動向（2005年9月）

金属資源開発調査企画グループ

資料

ベースメタル国際動向（2005年9月）

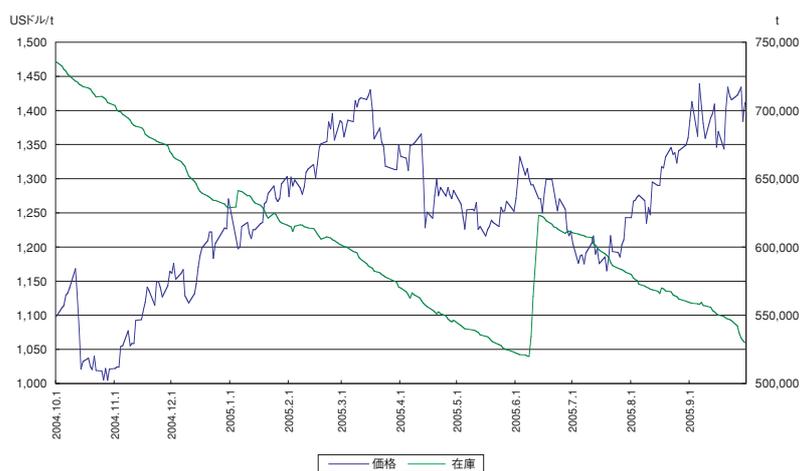
1. 亜鉛の国際価格は、8月から9月にかけて上昇基調で推移し、長期化するカナダ・トレイル製錬所のスト、投機資金の流入と、良好なファンダメンタルズが影響して、9月20日以降1,400ドル台前半の安定した値動きで推移した。
2. 2005年1～7月の鉱石生産は、前年同期比1.6%増と伸び悩んだ。地金生産は同2.8%増で依然として鉱石不足の状況が続く。消費は同1.8%増。
3. 2005年1～7月の世界の亜鉛需給バランスは、162千tの供給不足となり、供給がタイトに向かっている。

1. 国際価格

亜鉛の国際価格は、8月から9月にかけて上昇基調で推移し、長期化するカナダ・トレイル製錬所のスト、投機資金の流入と、良好なファンダメンタルズが影響して、9月6日には1,439ドル/tと1997年9月以来となる高値を記録した。その後も、1,400ドル台前半の安定した値動きで推移した。

亜鉛の国際価格は、8月から9月にかけて上昇基調で推移した。7月から継続しているカナダ・トレイル製錬所のスト、メタル相場全般に対する投機資金の流入と、良好なファンダメンタルズが影響して、8月は1,200ドル台から1,300ドル台後半へ回復した。さらに、9月に入ると米国でハリケーン「カトリーナ」の被害により、LME在庫の44%（9月2日現在）を占め

るニューオリンズ倉庫の在庫が凍結されたことから相場は急騰し、6日には1,439ドル/tと1997年9月以来となる高値を記録した。その後、調整局面を迎え1,400ドル台前半と1,300ドル台後半を行き来し、月末にかけては長期化するトレイル製錬所のストを材料に、1,400ドル台前半の安定した値動きで推移し、9月30日には1,411ドル/tで終了した（図3-1）。



単位：千t

亜鉛	2004年			2005年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (t)	705,150	669,825	628,625	615,925	601,600	570,600	546,375	522,925	611,175	581,525	559,625	529,975
平均価格 (USドル/t)	1,065	1,096	1,180	1,246	1,326	1,378	1,300	1,244	1,276	1,194	1,298	1,398

図3-1 亜鉛価格と亜鉛在庫量の推移

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

2. 需給 (2005年1～7月)

- ① 鉱石生産は前年同期比1.6%増と伸び悩んだ。地金生産は同2.8%増で依然として鉱石不足の状態が続いている。消費は同1.8%増で中国、韓国で消費が伸びている。
- ② 2005年1～7月の世界の需給バランスは162千tの供給不足となっており、2004年と比べて不足量は若干減少しているものの、供給がタイトに向かっている。
- ③ LME亜鉛在庫量は、2005年8月に22千t減少して560千tとなり、9月末で523千tまで減少した。

2005年1～7月の世界の亜鉛鉱石生産は5,643.5千tであり、対前年同期比1.6%の微増。最大生産国の中国で2.2%増、豪州で2.9%の増、ペルーでも1.0%の増産となった。米国は対前年比0.6%減産、カナダでもBell Allard鉱山及びBouchard-Hebert鉱山の閉山の影響で9.1%の大幅な減産となった。

2005年1～7月の世界の亜鉛地金生産は、6,019千tで、対前年同期比2.9%増となった。最大生産国の中国は、対前年同期比4.6%増となった。第2位のカナダは1.2%増、第3位の韓国、第4位の日本でも、需要増加、地金価格上昇により5%台の増産となった。

2005年1～7月の亜鉛消費量は、6,197千tで前年同期比1.8%の微増となった。最大消費

量の中国で8.9%、第4位の韓国では17.7%の大幅増となった。第2位の米国では11.4%減、ドイツは2.8%消費量が減少となり韓国に抜かれ第5位の消費国となった。アジアでの消費が伸び、欧米で消費が減退しており、地域差が際立つ結果となった。

2005年1～7月の世界の亜鉛需給バランスは、162千tの供給不足となり供給がタイトになっているが、前年同期は218千tの供給不足であったことと比べると、不足量は若干減少している。

亜鉛のLME在庫量は、2005年8月22千t減少して560千tとなり、9月末で523千tまで減少した。これは、2005年5月の在庫水準である(表3-1、3-2)。

表3-1 亜鉛の需給状況

単位:千t

亜鉛	2004年													年計	1～7月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
鉱山生産量	764	756	807	802	804	796	827	809	817.5	830.0	837.5	789.0	9,639	5,556	
地金生産量	808	802	843	822	864	870	839	862	858.3	875.6	839.9	886.5	10,170	5,848	
米国備蓄放出	1.3	1.2	4.2	4.2	3.8	2.2	1.8	5.1	2.2	2.4	2.4	1.6	32.4	19	
消費量	851	804	880	900	900	873	877	908	872.2	882.1	878.8	850.8	10,477	6,085	
需給バランス	-41.7	-0.8	-32.8	-73.8	-32.2	-0.8	-36.2	-41.3	-11.7	-4.1	-36.5	37.3	-274.6	-218.3	
亜鉛	2005年								前年同期比 (%)						
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1～7月計							
鉱山生産量	781.7	759.8	806.5	803.0	811.6	850.1	830.8	5,643.5	1.6						
地金生産量	837.6	837.2	885.3	873.1	876.8	887.7	821.4	6,019.1	2.9						
米国備蓄放出	0.9	0.2	1.7	6.9	0.3	2.7	2.6	15.3	-18.2						
消費量	825.0	847.6	947.9	895.7	892.6	916.5	871.5	6,196.8	1.8						
需給バランス	13.5	-10.2	-60.9	-15.7	-15.5	-26.1	-47.5	-162.4	-						

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

表3-2 LME 国別亜鉛在庫量の推移

単位:千t

国名	2004年			2005年							
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
米国	318.5	309.7	293.0	306.7	305.6	304.1	299.8	296.1	293.8	286.6	264.2
イタリア	121.8	118.2	112.1	106.5	105.2	104.1	102.3	100.3	115.4	112.5	108.3
マレーシア	—	—	—	—	—	—	—	—	63.3	58.8	54.0
UAE	113.1	102.1	92.9	86.7	77.0	64.6	59.4	48.3	41.7	32.9	26.9
シンガポール	101.7	92.4	84.9	76.5	66.7	53.6	47.1	43.1	40.6	37.9	36.3
オランダ	34.6	32.9	31.0	25.7	28.5	25.8	19.6	17.2	35.4	32.3	27.0
英国	10.5	10.3	9.8	9.6	14.3	14.1	13.8	13.5	16.2	16.9	16.7
その他	5.0	4.2	4.9	4.2	4.3	4.3	4.4	4.4	4.8	3.6	0.7
合計	705.2	669.8	628.6	615.9	601.6	570.6	546.4	522.9	611.2	581.5	559.6

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

〈今後の需給見通し〉

国際鉛亜鉛研究会は、西側世界の亜鉛地金需給は2005年272千tの供給不足、2006年には430千tの供給不足と、前回の予測よりも供給がタイトであるとの需給予測を発表した。

LME 亜鉛平均価格予測は、Barclays Capitalは、供給が極度にタイトでありめっき鋼版価格が下げ止まりにあることから2005年第4四半期の予想価格を1,450ドルと上方修正している。

4. ニッケルの国際市況と需給動向 (2005年9月)

希少金属備蓄グループ

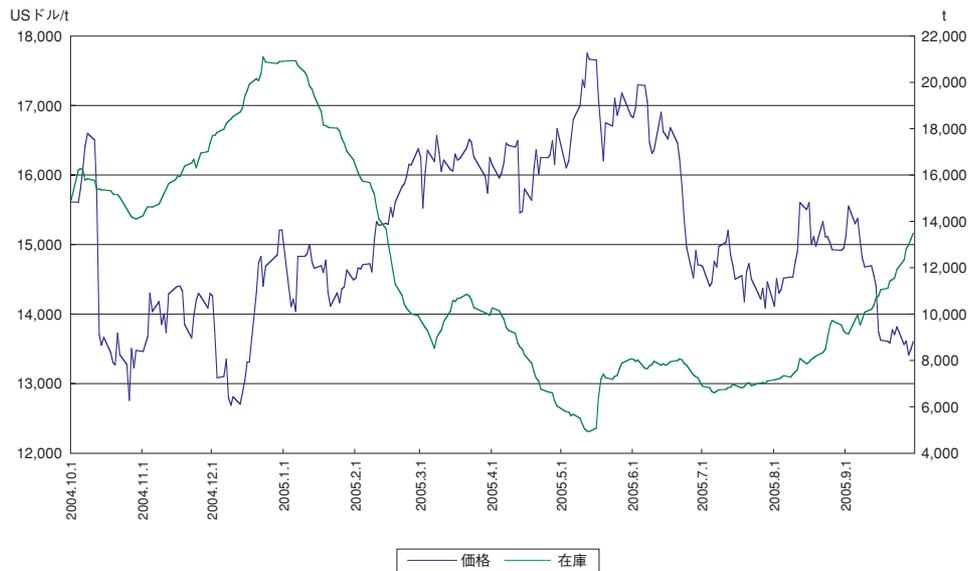
1. ニッケルの国際価格は、6月下旬より下落、同24日には15,000ドル割れとなり、その後も14,000～15,000ドル台で推移。9月に入り15,000ドル台から徐々に下落、9月中旬にはインコ社の労使交渉妥結などを受け、14,000ドル割れとなり、その後も13,500ドル前後で推移、9月末日現在13,600ドル。
2. 2005年1～7月の需給バランスは、23.5千tの供給過剰。LME在庫量は2005年に入り大幅に減少したが8月より回復、9月末時点で13,488t。
3. 2005年のニッケル需給は、ステンレスメーカーの減産傾向が続くことなどから緩むとの見方が強い。ニッケル国際価格については、需給の緩みや在庫の増大傾向を背景に、引き続き軟調で推移するとの見方が強い。

1. 国際価格

ニッケルの国際価格は、6月中旬まで16,000ドル台で堅調推移したが、世界的なステンレス鋼の供給過剰懸念から6月22日より下落、同24日には15,000ドル割れとなり、7月から8月も14,000～15,000ドル台で推移。9月に入り15,000ドル台から徐々に下落、9月15日にはインコ社の労使交渉妥結などを受け、2004年12月以来の14,000ドル割れとなった。その後も13,500ドル前後で推移し、9月末日現在13,600ドル。

ニッケル国際価格は、2月後半には2004年10月以来の16,000ドル台となり、6月中旬まで16,000ドル台中盤で堅調推移したが、世界的なステンレス鋼の供給過剰懸念が嫌気されたことから6月22日に大幅下落し16,000ドルを割り込んだ。同月24日には14,955ドルと2005年2月以来の15,000ドル割れへと続落した。その後、7月に入っても、欧州、韓国、国内の

ステンレス鋼ミルの相次ぐ減産なども影響し14,000ドル台が続き、8月も14,000～15,000ドル台で推移した。9月上旬15,000ドル台を付けていたが、その後徐々に下落し14,000台となり、9月15日にはインコ社の労使交渉妥結などを受けて、2004年12月以来の14,000割れとなった。その後も13,500ドル前後で推移し、9月末日現在13,600ドルとなっている(図4-1)。



ニッケル	2004年			2005年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫(t)	14,094	17,358	20,898	16,644	9,924	9,936	6,240	8,064	7,032	7,110	9,258	13,488
平均価格(USドル/t)	14,411	14,053	13,776	14,505	15,350	16,190	16,142	16,932	16,160	14,581	14,893	14,228

出典：国際ニッケル研究会

図4-1 ニッケルの価格と在庫量の推移

2. 需給 (2005年1～7月)

- ① 2005年1～7月の鉱石生産は3.6% (27.5千t) の増。地金生産は3.8% (27.0千t) の増。消費は1.0% (7.2千t) の減。
- ② 2005年1～7月の需給バランスは、23.5千tの供給過剰。
- ③ LME在庫量は2005年に入り大幅に減少したが8月より回復、9月末時点で13,488t。

2005年1～7月のニッケル鉱石生産は784.0千tで、対前年比3.6% (27.5千t) の増となった。最大生産国のロシアは2.3% (3.5千t) の増、第2位豪州は22.3% (20.6千t) の大幅増となり、第3位カナダの3.4% (3.7千t) の減、第4位インドネシアの4.7% (3.8千t) の減を補った。2005年1～7月のニッケル地金生産は748.9千tで、対前年比3.8% (27.0千t) の増となった。最大生産国ロシアはほぼ変わらず、第2位の日本は5.0% (5.0千t) の減、第3位カナダは2.9% (2.4千t) の減となったが、第4位豪州の13.0% (8.9千t) の増、第5位中国の12.6% (6.2千t) の増がこれを補った。2005年1～7月のニッケル地金消費は725.4千tで、前年比1.0% (7.2千t) の減となった。日本を抜いて

消費量第1位となった中国は32.1% (25.7千t) の大幅増、第3位の米国は1.5% (1.1千t) の増となり、第2位の日本は7.2% (8.1千t) の減、第4位韓国は3.7% (2.2千t) の減、第5位ドイツは2.8% (1.6千t) の減であった。

2005年1月～7月の需給バランスは、23.5千tの供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫量は、2005年に入り減少傾向に転じ、5月中旬には5,000tを割り込み1991年以来の低水準となった。その後やや回復し、5月末か6月後半まで8,000t前後で推移、6月末から7月は7,000t前後が続いた。8月に入りさらに回復し、同月下旬には9,000t台となり、9月9日には約半年ぶりに10,000tを超え、9月末日時点で13,488tとなっている(表4-1、4-2)。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位：千t (Ni純分)

ニッケル	2004年													年計	1~7月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
鉱山生産量	109.6	105.0	109.0	111.4	108.2	107.2	106.0	108.6	113.5	113.8	106.9	108.8	1,308.1	756.5	
一次地金生産量	108.7	103.2	102.7	105.7	103.7	100.5	97.2	104.5	101.4	105.3	106.5	110.8	1,250.4	721.9	
消費量	103.0	101.7	106.4	106.5	102.4	107.9	104.7	98.0	103.0	106.7	106.7	106.4	1,253.3	732.6	
需給バランス	5.7	1.5	-3.7	-0.8	1.3	-7.4	-8	6.5	-1.6	-1.4	-0.2	4.4	-2.9	-10.7	
ニッケル	2005年								1~7月計	前年同期比 (%)					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月								
鉱山生産量	106.9	108.6	116.9	112.1	111.5	118.8	109.1	784.0	3.6						
一次地金生産量	109.0	104.6	111.6	106.7	111.2	102.7	103.2	748.9	3.8						
消費量	110.1	105.1	106.0	105.1	106.5	100.3	92.4	725.4	-1.0						
需給バランス	-1.1	-0.5	5.6	1.6	4.7	2.4	10.8	23.5	-						

出典：国際ニッケル研究会

表4-2 LME在庫の変遷（2004年9月～2005年8月）

単位：t

国名	2004年				2005年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
ベルギー	66	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ドイツ	420	396	366	216	126	42	6	-	-	-	-	-
イタリア	144	138	78	90	60	42	42	42	120	120	90	90
韓国	-	-	-	-	-	-	-	-	348	288	252	186
オランダ	3,582	2,460	858	3,024	1,758	1,050	3,780	1,518	5,196	4,638	5,130	4,014
シンガポール	1,308	138	30	30	24	6	804	336	6	72	144	906
スウェーデン	1,230	2,706	2,682	2,475	2,478	2,226	1,434	1,188	984	792	510	3,054
英国	7,572	8,250	13,344	14,940	12,198	6,558	3,870	2,940	1,410	1,122	984	1,008
合計	14,322	14,094	17,358	20,898	16,644	9,924	9,936	6,024	8,064	7,032	7,110	9,258

出典：国際ニッケル研究会

〈今後の見通し〉

業界紙、メディア等によると、2005年の今後のニッケル供給については、全体としては増産基調と予測される。一方、需要サイドについては、ニッケル用途の2/3以上を占めるステンレス分野において、国内外のステンレスメーカーの減産傾向は今しばらく続く見通しであるため需要は弱く、また、在庫の増大傾向からも、2005年のニッケル需給は緩むとの見方が強い。また、国際ニッケル研究会によると、2005年上半期のニッケル需給は、10,000 tの供給過剰であったと報告している。

しかし、主要生産者等の長期的予測によると、ニッケル新規プロジェクトの本格始動が2007年

以降であること、中国、インドでのステンレス需要が今後さらに高まること、さらに航空機・エネルギー産業向けのスーパーアロイの需要は好調であることなどから、ニッケル需給は2006年まではタイトとの見方をしている。

ニッケル価格については、ステンレスメーカーの減産基調が今しばらく続く見通しであり、また、LME在庫が約半年ぶりに1万t台に回復するなど、弱材料が重なっているため、短期的には引き続き軟調で推移するとの見方が強い。一方、バークレイズ・キャピタルは、今後のニッケル相場は、ステンレス需要の回復により上昇トレンドに転じ、来年にかけて17,000ドルに上昇するとの見解を述べている。